

14. 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

連絡先

茨城教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

活動メンバー

大学院学校臨床心理専修院生 11 名

学部生 8 名

養護教諭養成課程 1 名

英語選修 2 名

国語選修 1 名

人文学部人文コミュニケーション学科人間科学コース 2 名

人文社会科学部現代社会学科メディア文化コース 1 名

人文社会科学部人間文化学科 1 名

指導教員 2 名

正保春彦・地井和也（学校臨床心理専攻）

活動の内容・目的

単位制・三部制のフレックススクールとして平成 17 年度に開校した茨城県立鹿島灘高校および平成 20 年度に開校した茨城県立結城第二高校へ、生徒たちの心のケアの一端を担うことを目的とするキャンパスエイドとして大学院生・学部生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の 4 点である。

- (1) 生徒たちに対する気軽な話し相手としての役割を通じた支援活動を行う。
- (2) 「心理学」「道徳」授業時に補助者として参加する。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会・協議会へ参加する。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を毎回提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前期 5 名、後期 6 名が、結城第二高校では前期 5 名、後期 5 名がキャンパスエイドとして活動した。キャンパスエイドが活動できる曜日に偏りがあり、鹿島灘高校では前期月曜日と後期金曜日にそれぞれ 2 名が活動する一方で、前期水曜日にエイドが活動することができなかった。結城第二高校では前期金曜日に 2 名が活動する一方で、前期火曜日は前期木曜日のエイドが不定期に活動を行った。

毎月最終木曜日に大学内でミーティングを持ち、1 か月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し、情報の共有を図ると共に、活動上困難を感じるなどについて高校毎に話し合った後、全体で協議を行った。

また、キャンパスエイドの普段活動する高校以外のフレックス高校を訪問し、エイド活動を行う機会を持ち、他校の状況を知ることができた。

活動の成果・意義

フレックス高校に在学する生徒は、小・中学校時代に不登校やいじめを経験していたり、何らかの発達障害（またはその傾向）を持っていることも多く、そのために対人関係上の困難を抱えていることが多い。加えて、昨今は生活上の困難を抱えていることも少なくない。そのような生徒たちに対し、年齢の近い少し年上の存在として話をすることにより、心の支援を行うことができた。また、教室に居場所がなくお昼休みや空き時間に居場所を求めて来室する生徒などに、居場所とコミュニケーションの機会を与えることができた。

キャンパスエイドたちは、高校での活動と毎月のミーティングを通して、エイド室を訪れる生徒たちに対する理解や対応の仕方などを学び、対人援助についての理解を深めることができた。また、他校を訪問したことにより、学校の特色によってそれぞれ違いがあり、その違いに合わせたさまざまな工夫があることも学ぶことができた。